

4. ブプレウラムの発芽率向上のための採種時期と播種時の注意点（情報）			
[要約] ブプレウラムは夏季に採種し、室温で2か月保存すると発芽率が高い。また、播種時に土壌水分が多いと発芽率が低下するため、水はけのよい用土を用いる。			
研究室名	中山間農業研究室	連絡先	0868-57-2758

[背景・ねらい]

ブプレウラムは種子の発芽不良による成苗率の低下が問題となっている。そこで、種子の発芽不良要因を解明するとともに発芽安定のための方策を明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 採種時期によって発芽率は異なり、9月上旬採種では長期間高い発芽率を示したのに対し、10月下旬採種では発芽率が低く、12月中旬採種ではほとんど発芽しなかった（図1、2）。
2. 9月上旬採種においても採種直後は発芽率が低かったが、時間の経過とともに約2か月後には発芽率が高位安定した（図1）。また、種子は冷暗所に保存するより室温で保存した方が発芽率が向上した（データ省略）。
3. 播種床の土壌水分率（重量比）が高いほど出芽率は低く、77%の水分飽和状態では全く発芽しなかった（図3）。

これらのことから、ブプレウラムは夏季に採種すると発芽率が高く、室温で2か月保存すると発芽率が安定する。また、播種時に土壌水分が多いと発芽率が低下することから、水はけのよい用土を用いるとよい。

[成果の活用面・留意点]

1. 種子は完熟後に採種する。
2. 育苗用土に水はけのよい土を用いると、乾燥による生育不良を起こしやすいことから、水分管理に注意する。

[具体的データ]

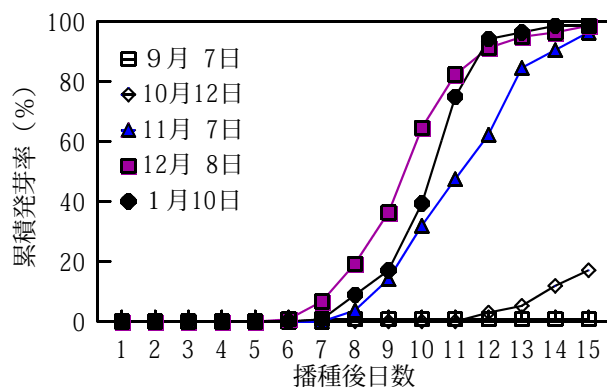


図1 9月5日採種の発芽試験日毎の発芽率

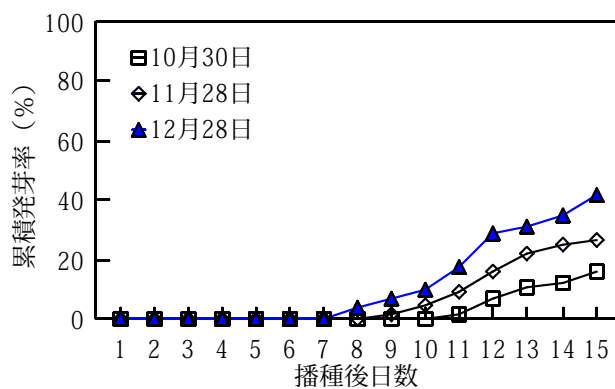


図2 10月26日採種の発芽試験日毎の発芽率

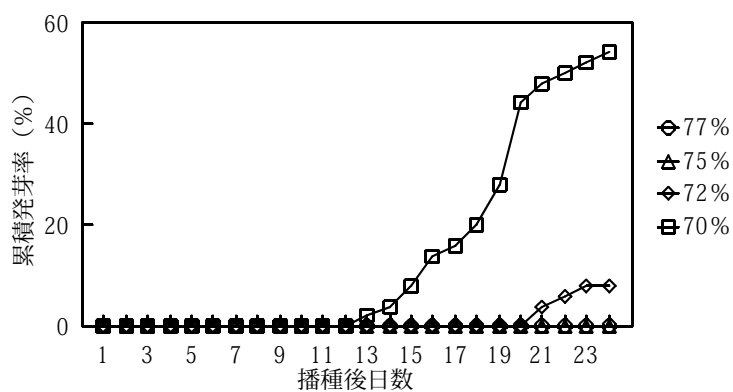


図3 播種床の土壌水分率が出芽率に及ぼす影響
9月5日採種種子

[その他]

試験研究課題事業名：ブプレウラムの生産安定技術の確立

予算区分：県単（緊急対策）

研究期間：平成12年～14年

関連情報等：なし